

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

**局名** 環境局

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会づくりを通じた豊かな生活の創造

担当局 / 総務担当課名	環境局	総務課
連絡先	582-2182	

21年度計画

-2-(3)-

**施策名** 市民・企業などによるCO2削減

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民、企業、行政機関などのあらゆる主体が地球温暖化問題を自らの課題として認識できるように、本市の特性を踏まえたシンボル性やメッセージ性のある施策を実施する。また、カーボンオフセットの仕組みづくりなどにより、市民や企業による省エネ活動などの自主的な取組を推進する。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	低炭素社会づくりを通じた豊かな生活の創造

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度		目標値	
	年度	21		実績	20 %	年度	平成22年度
レジ袋のお断り率	年度	21	計画	20 %	年度	平成22年度	
環境活動に参加している状況を把握するには、適切な指標であるため。なお、目標値については、マイバッグを5人に1人程度持参するように、環境意識の向上を図ることを目指し、設定した。	現状値	21.9%	実績	21.9 %	目標値	2.0%以上	
			達成度	109.5 %			
エコドラ北九州プロジェクト参加企業により削減されたCO2排出量	年度	21	計画	100 トン	年度	H23	
プロジェクト参加前の燃費データと参加後のデータを比較することで削減されたCO2排出量を算定	現状値	135トン	実績	135 トン	目標値	エコドラ北九州モデルとして全国に発信	
			達成度	135.0 %			
	年度		計画		年度		
	現状値		実績		目標値		
			達成度	%			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	137,317 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
			うち一般財源	31,368 千円	21,600 千円		

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	<b>A</b>	紫川エコリバー事業の施設整備については、地元の商店街等の協力を得て完成。 レジ袋の削減へのポイント付与やマイカーの利用抑制へのインセンティブ導入などにより、市民・企業などによるCO2削減を推進する仕組みについて、それぞれの目標を達成し、市民の意識改革にも寄与している。
今後の局施策の方向性		紫川エコリバー事業については、まちのにぎわいづくりに寄与すると同時に、整備した施設を活用した環境施策のPRを今後も行おう。 環境活動に市民や企業が身近な生活場面で取り組めるように、現在の施策の拡充を図りながら一層の働きかけを行う。 環境バスポート事業は、レジ袋削減以外の環境行動への利用拡大を検討する。 ノーマイカー推進事業はキャンペーン時だけでなく、通勤時や市域内へに拡大にも取り組む。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

施策は「市民・企業などによるCO2削減」であり、今後は分野別の年間CO2発生量等も参考的に示すなどの検討が必要と考えます。

施策名 市民・企業などによるCO2削減

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
紫川エコリバー整備事業			97,449 千円	9,300 千円	重点A			ウ	
事業費のうち一般財源									
北九州市民環境パスポート事業			24,543 千円	7,200 千円	裁量経費			ア	
事業費のうち一般財源			24,543 千円						
北九州発！エコドラプロジェクト			14,400 千円	3,300 千円	特別経費(重点)			ウ	
事業費のうち一般財源			5,900 千円						
ノーマイカー推進事業			925 千円	1,800 千円	裁量的経費			ア	
事業費のうち一般財源			925 千円						
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	137,317 千円	21,600 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	31,368 千円		

局施策の  
21年度評価

**A**

【局施策評価】  
A:大変良い状況にある  
B:概ね良い状況にある  
C:概ね良い状況とまでは言えない  
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	093-582-2238	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会づくりを通じた豊かな生活の創造
	主要施策	市民・企業などによるCO2削減

関連計画	北九州市環境モデル都市行動計画
事業期間	平成21年度～平成25年度
経費区分	重点A

-2-(3)-

事業名	紫川エコリバー整備事業	
-----	-------------	--

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民・来訪者が集まる小倉都心部において、太陽光発電や屋上緑化等の環境政策を積極的に推進する。率先して低炭素社会の見える化・感じる化を図るため勝山橋に太陽光発電ルーフを整備し、小倉都心部の低炭素顔づくり・にぎわいづくりを行なう。また、小倉都心部低炭素まちづくり推進プランを作成し、都心の新たな環境による魅力づくりに繋げる。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民・企業などによるCO2削減

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由 各種ハード整備担当部署が小倉都心部における環境配慮整備をすることとなったため、環境局としてはソフト面について計画を立て、実施していく。			
		現状	勝山橋太陽光発電ルーフの整備	推進プランに基づき事業を推進	懇談会の意見のもとに策定した計画の検証していく	懇談会の意見のもとに策定した計画の検証していく	懇談会の意見のもとに策定した計画の検証していく		懇談会の意見のもとに策定した計画の検証していく		
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）						平成21年度	目標		
		CO2削減効果						計画	—	年度	平成25年度
		太陽光発電や屋上緑化等の整備により削減できたCO2排出量を指標とする。 なお、H21は勝山橋に太陽光発電ルーフの設置を行い、発電電力を水環境館で使用した。						実績	8 トン	内容	CO2を年間10,000t削減
								達成度	%	年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	97,449 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	千円	9,300 千円		
単年度計画	[図表: 単年度計画の推移]										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】										
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	計画どおり勝山橋へ太陽光発電ルーフの設置を行い、市民意識の更なる向上と来訪者の環境に関する関心を高めた。								

【事業の再検証】												
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	官民それぞれの事業について、一体化を図ることができ、環境を主体とした街の活性化・にぎわいづくりに寄与した。									
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または同じコストでより高い効果を得られないか。		4: 高い 3: やや高い	4	本事業は国関係機関の助成金を用いており、勝山橋ルーフにおいては、入札方式で低価格となっている。さらに太陽光発電することで、水環境館の電力量の削減に寄与する。							
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		2: やや低い 1: 低い		4	都心部での環境施策の実施による感じる化は、市民はもちろん、市外からの来訪者に対しても環境の街北九州市がアピールできるため、早急に行う必要がある。						
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4			ハード整備としての行政のかかわりが必要であるため、市の関与をなくすことはできない。						
今後の方向性	ウ	市民を始めとする来訪者への環境ブランドのアピール、街の活性化・にぎわいづくりが必要であるため、今後も実施する。										

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	総務課
連絡先	582-2182	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会づくりを通じた豊かな生活の創造
	主要施策	市民・企業などによるCO2削減

関連計画	北九州市環境基本計画
事業期間	平成18年12月～(一部は平成21年9月終了)
経費区分	裁量経費

-2-(3)-

事業名	北九州市民環境パスポート事業
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	ポイントを交付することで、楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを市民に提供する事業。21年度は、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」と「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実験事業」のため、家庭から原料となる生ごみを持参してもらおうとIDカードにポイントを付与する「カンパスカード事業」の2事業を実施した。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民・企業などによるCO2削減	成果	レジ袋のお断り率	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	レジ袋のお断り率20%以上	レジ袋のお断り率20%以上	制度を検証しながら継続実施					
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)							平成21年度	目標
		カンパスシールによるレジ袋お断り率					計画	20.0 %	年度	平成22年度
		すでに目標の20%は達成し、その後も21%前後で推移している。当面は数値の向上を目指して、市民・参加店への呼びかけを継続する。なお、目標値については、マイバッグを5人に1人程度持参するように、環境意識の向上を図ることを目指し、設定した。					実績	21.9 %	内容	20%以上
							達成度	109.5 %	内容	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度 執行額)					事業費	24,543 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)  7,200 千円		
						うち一般財源	24,543 千円			
単年度計画	(この欄は空欄)									

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	カンパスシール事業は、計画どおりレジ袋のお断り率は20%を超えて推移。カンパスカード事業は、「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実証事業」において、バイオエタノールの原料となる生ごみを、家庭から分別・持参してもらった場合にポイントを交付。21年度9月で事業終了。
------	-------------------------------------	--

**【事業の再検証】**

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	カンパスシール事業は参加店舗が298店、お断り率は21.9%となり、年間2,100万枚以上のレジ袋を削減したこととなる。(平成21年度末)また、本事業の認知度が70%を超え(20年度意識調査)、市民環境力の向上への貢献度も大きい。カンパスカード事業は、参加者が700名を超え、エタノール化事業の趣旨周知と生ごみの供給の役割を果たすことができた。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	カンパスシール事業は、楽しみながら環境行動を促進するという事業目的を、参加店舗のシールの購入に基づき運用している。カンパスカード事業は、「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実証事業」は実証機関(企業)からの経費を充当することで実施しているため、本市の補填分は僅かである。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	カンパスシール事業は、18年度の家ごみ収集見直しと合わせて、リデュース事業に本市として取り組む必要性があった。カンパスカード事業は、「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実証事業」の実施が当該期間に限られていた。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	3	事業活動を含めた市民環境力の向上は、行政の役割である。レジ袋の削減については、レジ袋の無料配布廃止の導入など取組方法を変更することで市の関与削減の余地はある。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	カンパスシール事業は、市民・事業者に定着している。加えて、レジ袋の無料配布廃止の導入など、レジ袋削減に関する新たな施策へのコンセンサスが進まない現時点では、一定期間の継続が望ましい。カンパスカード事業は、「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実証事業」が21年度終了することに伴い、一旦事業を終了。これまでのカード事業の課題を踏まえ、新たなエコポイントシステムの検討につなげる。市から北九州市民環境パスポート運営協議会(事業主体)へ委託料を払い事業実施しているが、委託料の見直しを検討し、より効率的な運用を図る。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	582-2239	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会づくりを通じた豊かな生活の創造
	主要施策	市民・企業などによるCO2削減

関連計画	北九州市環境モデル都市行動計画
事業期間	平成19年度～平成23年度
経費区分	特別経費(重点)

-2-(3)-

事業名	北九州発！エコドライブプロジェクト
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	あらゆる業種、業態の企業がエコドライブに取り組めるモデルを構築し、CO2を削減する。具体的には、プロジェクト参加企業に対してのエコドライブセミナーや月々の燃費管理票の提出による燃費データベースの構築などを行い、企業内でのCO2削減体制を推進していく。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民・企業などによるCO2削減	成果	エコドライブ北九州プロジェクト参加企業により削減されたCO2排出量

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度 八幡地区のみから小倉地区を加えて範囲を拡大	平成22年度 WEB上のシステムを用いた燃費管理の試行	平成23年度 プロジェクト最終年度として今後の方向性の検討	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	目標を上回るCO2の削減効果を上げた	WEB上のシステムを用いた燃費管理の試行	プロジェクト最終年度として今後の方向性の検討						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		プロジェクト参加企業により削減されたCO2排出量						計画	100 トン	年度	23年度
		プロジェクト参加前の燃費データと参加後のデータを比較することで削減されたCO2排出量を算定						実績	135 トン	内容	エコドライブ北九州モデルとして全国に発信
								達成度	135.0 %		
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度:執行額)						事業費	14,400 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
								うち一般財源	5,900 千円	3,300 千円	
	単年度計画	[斜線表示]									

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初目標を上回るCO2削減効果があった。また、それ以外にも燃料コストの削減や交通事故件数の低下等、さまざまな波及効果があった。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	当初目標を上回るCO2削減効果があり、今後も継続して取り組む。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4 全国的にもエコドライブ事業を本格的に行っている自治体はなく、簡単に取り組めてすぐに効果の出るエコドライブのモデル事業を完成するための必要最小限の経費で事業を実施している。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4 市内運輸部門のCO2排出量は増加を続けており、その対策は低炭素社会の実現のためには喫緊の課題であるため、エコドライブの普及を積極的に推進する必要がある。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	4 全国的にもエコドライブ事業を本格的に行っている自治体は本市のみであり、モデル事業の完成及び普及のためには、市の関与は必要である。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	H23年度にモデル事業を完成させる予定であり、その後市内全域に普及させていくこととしている。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	582-2239	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	地域からの低炭素社会への取組み
	取組みの方針	低炭素社会づくりを通じた豊かな生活の創造
	主要施策	市民・企業などによるCO2削減

関連計画	北九州市環境首都総合交通戦略
事業期間	エコスタイルタウン及びまつり起業祭時
経費区分	裁量的経費

-2-(3)-

事業名	ノーマイカー推進事業
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか、	市民や事業者の方に、公共交通や自転車、徒歩等で移動するようなライフスタイルへの転換を促すため、イベント開催時、ノーマイカーでの来場者に商店街割引等の特典を付与するノーマイカー得々キャンペーンを行うことで、マイカーの過度な利用を控えてもらう。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民・企業などによるCO2削減	成果	エコドラ北九州プロジェクト参加企業により削減されたCO2排出量

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	エコスタイルタウン(H21.10)及びまつり起業祭時(H21.11)に実施	市内全域に拡大し、H22.11月~実施	市内全域に拡大して実施	市内全域に拡大して実施		市内全域に拡大して実施
	現状	エコスタイルタウン(H21.10)及びまつり起業祭時(H21.11)に実施	市内全域に拡大し、H22.11月~実施	市内全域に拡大して実施	市内全域に拡大して実施	市内全域に拡大して実施		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
	エコスタイルタウン(H21.10)及びまつり起業祭時(H21.11)にノーマイカー得々キャンペーンを実施				計画	-	人	年度
	大規模イベント時にノーマイカーによって公共交通利用を促し、CO2を削減するとともに地域商店街の活性化につなげるもの				実績	6,800	人	内容
					達成度		%	
					計画			年度
					実績			内容
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度:執行額)				事業費	925	千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
					うち一般財源	925	千円	1,800 千円
単年度計画								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	エコスタイルタウン(H21.10)及びまつり起業祭時(H21.11)に実施した結果6800人もの参加者があった。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	6800人という参加者の規模から判断するとかなりの効果があったと考えている。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4 商店街での特典や割引を商店街負担で行っていただくとともに、市ではチラシ作成などの必要最小限の経費に抑えており、経済性・効率性の面でも問題は無い。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 市内運輸部門のCO2排出量は増加を続けており、その対策は低炭素社会の実現のためには喫緊の課題であるため、ノーマイカーの普及を積極的に推進する必要がある。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	4 ノーマイカーに参加する事業者や地域商店街との調整など、市が中心となって関与する必要がある。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	H21年度までは、エコスタイルタウンとまつり起業祭というイベント時に限定して行ってきたが、今後は通勤等のノーマイカーを含め、市内全域に拡大する予定である。